

校長挨拶

沖縄県立八重山商工高等学校
校長 仲山 久美子

本校のホームページにアクセスいただき、ありがとうございます。

本校は昭和 42 年に開校し創立 58 年を迎える商業及び工業教育の基幹校です。また、商業教育においては定時制課程で学ぶことも可能であり、地域に根ざし、地域に愛される学校づくりを日々目指しています。

正門を入り左手に「友愛津梁」と刻まれた校訓が目に入りましたでしょうか？「友愛の精神を以て、広く世界を結ぶ架け橋となり、有意な人材となる」の意が込められています。本校卒業生は、県内外、そして国内にとどまらず、世界の架け橋となり、それぞれの道で活躍しています。

特色ある教育活動として、全国に先駆けて学科の垣根を越えた学級編成であるミックスホームルームの編成や他学科・コースの科目を選択できる総合選択制の教育課程で多様な学びや体験が可能となっています。また、各学科の専門科目に応じた多くの各種資格・検定等の取得を奨励し、実習・課外講座等で力を付け、工業科はジュニアマイスターゴールドや機械加工技能士2級など、商業科は簿記検定や中国語検定取得で成果をあげています。

その他、スポーツ面や文化面においても全国的に顕著な実績を挙げており、平成 18 年の野球部春夏連続甲子園出場、同年 11 月には機械工作部がエコデンレース全国大会で優勝、平成 19 年 8 月には、郷土芸能部が第 31 回全国高文祭で文化庁長官賞受賞等、本校の歴史に燦然と輝き、日々、職員や在校生の励みになっています。

また、日本最南端の高等学校であると同時にアジアの中心であるここ沖縄、八重山において、観光コースを中心に中国語を学び、台湾省立花蓮高級中学(現在は国立花蓮高級中学)の訪問、姉妹校締結など、継続した親善交流でグローバルな人材育成を行っています。

このような言葉があります。「山は樹を持って茂り、国は人を持って盛んなり」という言葉です。山に樹が茂るように、国は人で栄える。という意味です。あの於茂登岳がそうです。遠くから見ると、深緑の大きなひとつの山ですが、麓に行くと、一本一本の木でなりたっているのがわかります。では、国を学校に置き換えるとどうでしょうか。「学校は生徒を以て盛んなり」となるでしょう。これまでも本校は生徒一人ひとりが、国家資格や検定に挑戦し、運動系、文化系の部活動生の活躍や日々の生徒会活動等で、ここまで栄えてきました。4月に新入生を迎え、令和6年度は419名の生徒でより一層、学校の活性化と発展が期待できます。

終わりに、教育は、学校、家庭、地域が、ゆるぎない信頼関係のもと、それぞれの役割をきちんと果たすとともに、お互いが手を携えてこそ、成果が上がるものです。生徒の夢を叶え、親の願いを叶え、地域の期待に応えることが学校の使命であることを心にとめ教育活動に努めてまいります。保護者、卒業生、地域の皆様のより一層の温かいご支援とご協力をいただきますよう宜しくお願いいたします。

令和6年4月8日

沖縄県立八重山商工高等学校
校長 仲山 久美子